

山形県小国町



愛知県豊根村

岡山県鏡野町



岩手県一関市



わたし × 地域

あなたが変わる1年間

緑のふるさと協力隊は農山村で暮らしながら
地域のお手伝いをする1年間のチャレンジ。

五感をフル稼働させ生きること、働くことと
向き合う時間がそこにあります。

あなたも「生きる」を実感してみませんか？

隊員募集要綱

愛知県幸田町



岡山県鏡野町



宮崎県日之影町



第32期 緑のふるさと協力隊

活動期間 2025年4月4日(金)–2026年3月15日(日)
参加資格 18歳～概ね45歳までの人／参加期間を通じ、現住所を離れて活動できる人



緑のふるさと協力隊



後援 | 内閣府、総務省、文部科学省、農林水産省、全国市長会、全国町村会、全国山村振興連盟、(公財)日本離島センター、日本青年団協議会、(公社)国土绿化推進機構、NHK、全国水源の里連絡協議会、特定非営利活動法人中山間地域フォーラム(順不同)



この地で ここの人たちと もっと暮らしたいと思いました

緑のふるさと協力隊は 若者が農山村で暮らしながら

地域のお手伝いをする 1年間のチャレンジ

地域を元気にしたい農山村と

自然の中で思いきり体を動かし夢中になれるものを求める

若者たちの思いをつなげてきました

一生懸命に動く隊員を

地域の人たちはあたたかく迎え入れ 優しく見守ってくれます

そこにあるのは 多くの人との出会い つながり たくさんの学び

地域の人たちと一緒に なつみ 考え 動いているうちに

いつしか見えてくる 自分の「こう生きていきたい」という思い

「どんなふうに住まいをしようとも 大切なのは自分の気持ち・生きかた」と語る隊員たち

五感をフル稼働させ 生きること 働くことと向き合う時間が そこにあります

あなたも「生きる」を実感してみませんか？





「緑のふるさと協力隊」をひも解く 5つのキーワード

1年間チャレンジ

「緑のふるさと協力隊」として過ごす1年間は、地域の思いに耳を傾け、住民と共に動き、語り、汗を流す日々。活動に加えて、祭りに参加したり、地区清掃に協力したりと農山村らしい近所づきあいをしながら、住民の顔が見える地域密着型の活動と暮らしで地域にどっぷりつかります。なりわいや四季の暮らしを通して農山村について深く知ることは、地域づくりの経験を積む絶好の機会といえるでしょう。



856人・31年間

1994年にスタートした協力隊には、31年間で856人の若者が参加しました。若者に求められるのは思い切り動く情熱と、謙虚に学び、地域の応援者になろうという思い。地球緑化センターでは、これまでの活動の積み重ねを基に練られた研修や相談体制で、受入先自治体と協力しながら隊員をサポートしています。慣れない土地での活動や暮らしでは、時には悩んだり助けが必要なこともあるかもしれませんが、隊員の頑張る姿をたくさんの人が応援しています。

▶活動と暮らし ▶1年間のすごしかた

月5.5万円の暮らし

協力隊は社会貢献活動という位置づけのため、給料はありません。その代わりに1年間暮らすための住居と水道光熱費が用意され、生活費として毎月5.5万円が支給されます。必要なものは何でも「買う」都会の生活とは違って、農山村の暮らしは「工夫する」知恵にあふれています。畑で野菜を作ったり、ご近所からおすそ分けが届いたり。自ら手を動かし、また助け合いに支えられながら、5.5万円だからこそその心豊かな毎日が待っています。

▶現地生活について ▶先輩の活動



地域×あなた=∞

協力隊の活動は、農林業から観光、福祉や教育、地域行事や伝統文化まで、地域社会を支える多種多様なお手伝い。それを通して生き方の手本となる人や、あこがれの家族像など、人生の糧となる多くの出会いがあります。一方、農山村にとっては、若者が地域に飛び込むことに意義があります。隊員一人の力は小さくても、その懸命な姿が励みとなり地域が動く原動力に。言葉や習慣などのギャップも刺激となり、隊員の感性が新しい風となるのです。

▶活動と暮らし

約4割が定住

隊員たちは活動終了後、農山村に定住するなどし、農林畜産業、行政、観光、福祉、教育、食、地域づくりなど様々な分野で活躍しています。人とのつながりを深めるなかで「どこかに就職する」というよりも「どこでどうやって生きるか」という視点を育み、生き方を選んでいきます。また、1年間暮らした地域は「第二のふるさと」。まるで地域がひとつの家族のような、あたたかくて、いつでもふらっと「帰れる」場所になるはず。 ▶活動終了後の進路



受入先と参加者

2024年度(31期)緑のふるさと協力隊

1 山形県 小国町

15周年のイベントを開催する

佐々木 佑真
大阪府・大学生(休学)

2 福島県 川内村

食ること 寝ること

大槻 智士
神奈川県・大学生

3 群馬県 上野村

未知の探求

三宅 伸幸
高知県・大学生(休学)

4 長野県 泰阜村

積極的に 楽しみ尽くす

大原 理彩子
大阪府・大学院生(休学)

12 宮崎県 諸塚村

生き延びる

吉田 陸人
神奈川県・アルバイト

13 宮崎県 日之影町

いろんな価値観に触れる

大宮 好誠
東京都・大学院生(休学)

5 愛知県 豊根村

素直に 糸の自分で

清水 友貴子
東京都・会社員

11 宮崎県 諸塚村

自分から積極的に伝える
聞かずにいなく 飛び込む、やってみる

垣内 麻梨乃
福井県・団体職員

◆ 第31期協力隊データ
派遣人数:13名(男性7名、女性6名)
(社会人6名、学生7名(うち休学5名))
平均年齢:26.3歳
受入先自治体数:11市町村

①山形県・小国町(15)
②福島県・川内村(1)
③群馬県・上野村(28)
④長野県・泰阜村(11)
⑤愛知県・豊根村(18)
⑥石川県・白山市(白峰地区)(25)
⑦福井県・坂井市(竹田地区)(11)
⑧⑨岡山県・鏡野町(23)
⑩高知県・大川村(10)
⑪⑫宮崎県・諸塚村(21)

※()の数字は受入回数

6 石川県 白山市(白峰地区)

素直

前田 聡子
愛知県・会社員

10 高知県 大川村

全力で 楽しむ

都築 有沙
東京都・アルバイト

9 岡山県 鏡野町

何事にも焦らず
できるところから
可能性を広げる

太田 航平
福島県・会社員

8 岡山県 鏡野町

掘る

豊島 裕香子
東京都・大学生(休学)

7 福井県 坂井市(竹田地区)

人の緑を ひとづ
挑戦精神を持ち続ける

池田 英樹
東京都・大学院生

※名前の下は参加前の住所・職業

活動と暮らし

充実した1年にするため、隊員・受入先(行政など)・地球緑化センターの3者がスクラムを組みそれぞれの役割を担っています。緑のふるさと協力隊には、特別なスキルや資格は求められていません。地域の方と一緒にあって動き、語り、暮らすこと。隊員の一生懸命に取り組む姿そのものが、農山村の活力につながります。



両者を結ぶ相談窓口

地球緑化センター
 隊員と受入先の連絡調整役として
 円滑な現地活動を年間を通してサポートします

農山村に行ってみよう

緑のふるさと協力隊
 受入先で求められる
 様々な活動に取り組みます

↓ ↑

地域を元気にしたい農山村

受入先(市町村役場、または公的機関等)
 地域住民に事業の理解と協力を要請したり
 隊員の活動内容や日常生活のサポートをします

活動のすすめ方

- 1 協力隊の受入窓口は、市役所、町村役場または公的機関等です。主に農林漁業や地域振興を担当している部署などが窓口です。その職員が「受入先担当者」として隊員の活動の調整や暮らしのサポートをします。
- 2 受入先が隊員のための活動プログラムを用意しています。まずは用意された活動に一生懸命取り組んでください。
- 3 だんだん活動や暮らしに慣れて余裕が持てるようになれば、活動の内容にも自分なりの希望が出てくるでしょう。その時は担当者とよく話し合い、自分なりの活動目標を組み立てていけば、実りある活動となるでしょう。
- 4 隊員の活動は受入先が用意した活動だけではありません。多くの人と交流を深めるために自分の時間を活用して地域の行事や集落活動に積極的に参加しましょう。
- 5 地球緑化センターも電話や必要に応じた訪問などでサポートします。問題が起きたら抱え込まず自分からも相談しましょう。



農業・林業

農業…野菜・米・花卉・果樹栽培収穫／観光農園手入れ／農協(ラベル貼り・育苗センター・苗運び)／米検査など

林業…森林組合(下草刈り・枝打ち・間伐など)／伐採木の片づけ／炭焼き／登山道・林道整備／竹林整備／木材加工／林産物生産(きのこ類・山菜)／台風被害記録



畜産・漁業

畜産…牛舎清掃整備／牧柵整備／和牛コンテスト／衛生検査／注射／放牧調査／イノブタ飼養／牛のセリ市／養鶏など

漁業…トビウオ漁／海苔工場／アユ放流／養魚池整備／カキ漁など



食・特産品づくり

農産物加工…大豆加工(豆腐・きな粉)／味噌／ジャム／こんにやく／山菜など

保存食・伝統食づくり…郷土料理レシピまとめ／五平餅／ちまき／しそ餅／凍み豆腐／凍み大根など

特産品開発…住民アンケート実施／地域の銘菓開発(梨蜜・ボン菓子・桜の花塩漬)



観光・イベント

地域行事…山開き／餅つき／山の神祭り／七夕祭り／民俗芸能祭／夏祭りなど

伝統芸能…祭り／夜神楽／農村歌舞伎／和太鼓／よさこい／阿波踊りなど

観光…道の駅／キャンプ場／国民宿舎／観光案内所／体験施設／物産館／直売所／出張物産販売など

地域おこしイベント…山菜まつり／キャンドルナイト／マラソン大会／花火大会など



福祉・お年寄り

福祉施設…ふれあいサロン・デイサービス／社協作業所／リハビリセンター／保健センター／健康診断手伝い

自宅訪問…高齢者住宅巡回(聞き取り・配食サービス)／高齢者宅清掃(窓ふき・障子張り)



教育・子ども

学校行事…読み聞かせ／清掃登山／ALT 英語講師補助／プール清掃／運動会／学童保育／音楽会／図書館の本整理／自然学校指導補助／体験学習受入(村内・都市部)

山村留学施設…指導員補助／食事補助／子どもたちのお世話

公民館…公民館・児童館行事／文化祭／資料館・交流館受付対応／スポーツセンター



情報発信

ケーブルテレビ取材・番組キャスター／FM ラジオ出演／ブログ・SNS更新／ホームページ更新／広報誌連載／自主制作新聞



集落活動

青年団／消防団／婦人会／自治会／子ども会／老人会／寺社清掃／側溝泥上げ／集落見回りなど



手しごと

木工細工／竹細工／わら細工／つる細工／正月飾り(しめ縄・門松)／紙すき／桐下駄／染め物など



生活維持

草刈り／雪かき／冬支度／クリーンアップイベント／獣害対策(鹿よけ網・イノシシ箱わな設置)／薪割りなど



役場事務手伝い

交通量調査／防火訓練／歳末夜間パトロール／転作確認／観光パンフ・マップ作成／水質調査／獣害調査／選挙運営手伝い／台風被害復旧作業など

多様な活動

1年間のすごしかた

協力隊の年間活動スケジュール(予定)

○ 事前研修(4月・4泊5日)

派遣される協力隊全員が集まり、講座やフィールドワークを通して、現地活動に向けての心構えを学びます。また、派遣される自治体は違えども1年間を共にする心強い同期の仲間との絆を深めます。



9月 中間研修(9月・2泊3日)

活動や暮らしにもすっかり慣れてきた頃。前半の活動を振り返り、後半に向けて目標を再確認したり、気持ちを新たにしている研修です。半年ぶりに同期に会い、刺激を受けることも。中間研修で得たヒントを持ち帰り後半の活動に活かしていきます。

1月 進路相談

任期終了後の進路について、地球緑化センターや受入先が相談にのります。

3月 総括研修 活動報告会(3月・3泊4日)

1年間の活動をまとめる研修です。報告書の作成とともに「活動報告会」を開催し、多くの方に活動の成果を報告します。



4月 現地活動の開始

事前研修地から直接受入先へ向かいます。到着後、受入先担当者から活動と生活についてオリエンテーションを受けます。挨拶回りが終わったら、早速活動スタート。

START!!



GOAL!!



7月 受入先訪問

地球緑化センター事務局が受入先を訪問し、隊員や受入先担当者らと面談をします。

◆ 報告書の提出(当センターへ提出)

各月ごとに「活動レポート」、研修ごとに「報告書」を作成し提出します。

◆ 「ふるさと通信」の発行

年1~2回、隊員が持ち回りで、地域の様子を「ふるさと通信」として発行します。地元の人も気づかなかった地域の魅力や課題などを自分の言葉で伝えています。



活動するにあたっての心構え

① 地域の人たちの信頼を得る

まずは用意された活動に誠実に取り組み、地域から求められる役割を理解して、周囲の人たちとの間に信頼関係を築きましょう。ひとりの社会人としての自覚が求められます。

② 謙虚な学びの姿勢

活動の中で、未知の事実や考え方に会うこともあるでしょう。そんな時、一方的に自分の考えを相手に押し付けるのではなく、謙虚な気持ちでそれらを受け入れ、学ぶとする姿勢が大切です。

③ ルールを守る

活動は、受入窓口となる役所をはじめ地域の方々による目に見えない配慮や準備があって成り立ちます。そのため、あいさつや連絡、時間を守るなどのルールと共に、地域の伝統や慣例を尊重し、柔軟に対応・実践しましょう。

④ 自分から動く

困難にぶつかったり、悩んだりしたときは、周りのせいにせず、まずは自分にできることを精一杯やってみる前向きな姿勢を持ちましょう。もちろん事務局も年間を通してサポートします。

現地生活について

参加者が負担するもの

- ① 参加費 40,000円
- ② 交通費 自宅→事前研修地 総括研修地→自宅
- ③ 健康保険料、年金保険料
※協力隊参加に伴い、年金保険や健康保険等社会保険の切り替えが生じる場合は各自で手続きを進めます(健康保険の扶養家族「遠隔地健康保険証」発行や、国民年金の納付猶予手続きなど)。その際、証明書が必要となる場合は地球緑化センターから「派遣証明書」が発行できます。必要な人は申し出てください。
- ④ 引越し費用(運送費)
- ⑤ 一時帰省など自己都合による費用

車両について

- ① 隊員のための車が用意されています。到着後すぐに運転をすることになるので、不慣れな人は必ず運転の練習をしておいてください。
- ② 万が一に備え、保険に加入していますが、事故の状況によっては修理代を隊員が負担する場合があります。※普通自動車運転免許取得必須

休日について

- ① 受入先の規定に準じます。
- ② 年1回(2泊3日までの)帰省が認められています。ただし、家族に万が一のことがあった場合や就職試験などの場合は、特別休暇を取ることができます。
- ③ 受入先の同意が無い場合は、活動地を離れることができません。

保険について

当センターでは、隊員が活動中ケガをしたり、誤って他人のものを壊してしまった場合等、万が一に備え、以下のような保険措置を隊員全員に講じます。事故が生じないように常に隊員各自責任を持って健康管理に取り組みます。なお、危険を伴う活動を行う場合(例:チェーンソー等動力を使用する、カヌー・ラフティング等海や河川でのスポーツが含まれる活動をする)は、必ず十分な研修を受けさせ、別途保険に加入してください。

普通傷害保険

活動中以外の時間に何か起こった場合にもサポートできるよう、24時間補償タイプの傷害保険に加入します。

- ① 適用範囲 24時間補償タイプ
- ② 補償期間 協力隊活動期間(研修中も含む)

用意されているもの

- ① 住居・生活備品
隊員の住む場所、水道光熱費、基本的な生活備品(寝具、炊事用具、冷蔵庫、洗濯機、暖房器具など)
- ② 生活費 月額55,000円
当センターから毎月末、各自のゆうちょ銀行総合口座に振り込まれます。派遣までに口座開設の手続きをしてください。
- ③ 現地活動費
活動に伴う移動手段(車、バイク)や交通費、活動に必要な道具類など
- ④ 研修の経費
研修に参加するための交通費(事前研修地→受入先、受入先⇄中間研修地、受入先→総括研修地)及び宿泊費
- ⑤ 活動中の保険料(下表参照)

住居について

- ① 隊員は予め決められた住居で生活します。
- ② 1年間自炊して過ごすための基本的な生活備品(寝具、炊事用具、冷蔵庫、洗濯機、暖房器具など)が用意されています。これまでの生活と比べ不便と感じるかもしれませんが、地域の方々から暮らしの知恵を学びながら、工夫をこらし、生活します。
- ③ 自炊することが原則です。住居を丁寧に使いながら、健康的で規則正しい生活を心がけます。

ボランティア保険(賠償責任保険・傷害保険)

- ① 適用範囲
活動中に協力隊員が傷害を受けた場合、あるいは第三者の身体・財産に損害を与え、慰謝料・見舞金・賠償金を請求された場合
- ② 補償期間 協力隊活動期間(研修中も含む)
- ③ 補償内容 下表の通り(参考:2024年度版)

A:賠償責任保険

対物事故 1事故につき5億円(限度額)
対人事故 1事故につき5億円(限度額)

B:傷害保険(協力隊員自身の事故)

通院 7,000円/1日(最大90日)
入院 12,000円/1日(最大180日)
後遺障害 後遺障害の程度に応じて、死亡・後遺障害保険金額の100%~42%
死亡 1,600万円

先輩の活動



第30期(2023年度)山形県小国町派遣 川添 翔大さんの場合 理学療法士→緑のふるさと協力隊

1年間の流れ

- 4月** 挨拶まわり、農作業(種蒔き、苗出し、キノコの菌打ち)、対談イベント手伝い、ハウス建て
小国町はみんな温かい、挨拶に行くと、皆さん笑顔で今度手伝いをお願いするね、と言ってくれました。
- 5月** お祭り(熊祭り、山菜祭り)、山菜採り、地域の活動(神社の参道清掃、山焼き、マルシェ参加等)
初めてのマルシェ参加。若い世代中心で普段の小国町ではみられない景色をみれた。
こういう活動が新しい風なんだと感じた。
- 6月** 畑作業、熊の手解体手伝い、味噌づくり、NHKで全国デビュー、サロンで健康教室(理学療法士の資格あり)
わらび園の取材で、ワラビマンとしてNHKに出演。貴重な経験をしたり、地域の一致団結を感じた。
- 7月** 地域活動(旧道整備、伐採、盆踊りの準備)、放牧場の手伝い、スポーツ大会、地藏祭り参加
来月30年以上ぶりに復活する盆踊りの実行委員に入った。大変ではあるがやっと地域で主戦力としてお手伝いできるので頑張りたい。
- 8月** 小学生の体験教室(発電所見学、竹水鉄砲づくり等)、盆踊り、農作業(今年初の稲刈り)
今年初の稲刈り。山形県で一番ということもあり、報道陣が多数集結。黄金色に輝く稲は美しい。
- 9月** 中間研修、若葉のふるさと協力隊受け入れ、農作業(ハウス解体、草刈り)、地域活動(芋煮会、音楽祭)
若葉が印象的だった。初めて来た町であんなにも地域に溶け込める二人の行動力や人間性が勉強になった。
- 10月** 農作業(降雪に備える準備)、高校の授業参加、地域活動(神事の稲刈り、歴史資料館プレオープン)、森林セラピー参加
小国高校から授業の講師として呼ばれ、地区のハロウィンイベントの手伝いを高校生にお願いした。初めての学校とのコラボで大変だったが、地域と高校生がうまく関われたかなと思う。
- 11月** 地域の神事(新嘗祭、芸術祭(太鼓、民謡)、農作業(大根収穫、ネギ収穫等)、協力隊説明会参加
この時期になると、冬の準備で窓を雪囲いするなど大忙し。除雪が大変だとは言っているものの、雪が降らないと冬が来たと思えないと言うほど、雪と密接に関わっているんだと感じた。
- 12月** キノコ栽培手伝い、パレット配達手伝い、地域行事(餅つき準備、クリスマスパーティー、小国高校文化祭)
一番記憶に残るのは学童。子供たちと会う機会が今月は少なかったが、久々に会ってもみんな変わらず仲良くしてくれる。
- 1月** 地域の行事(歳旦祭、餅つき大会等)、農作業(牛舎手伝い、キノコ手伝い等)、活動報告会の準備
大みそかから、神社の灯の番をしていた。新年の零時丁度から歳旦祭という神事が執り行われていた。神事って本当に色々あるんだと感じた。
- 2月** 地域の行事(節分祭、イノシシ解体、木の伐採等)、移住体験ツアー手伝い、氷瀑見学、活動報告会1回目
地域の方が氷瀑を見に行こうと誘って下さり、朝4時に出発。凄く絶景。こんな自然が日本で見れるのか…
- 3月** 活動報告会、雪の学校(マタギと雪山登山)、しめ縄づくり、挨拶まわり、送別会
挨拶まわりをして、改めて関わってきた地域の方々的人数に驚いた。一人だったら何もできなかっただろうと感じる。感謝しきれない思いでいっぱい。

休日の過ごし方

休日は地域の同年代の友達と町外に遊びに行ったり、夏はBBQや海を楽しんだり、冬はスキー場に行き、時には町内に飲みに行ったりと活動では体験できないことを楽しんでいます。せっかく知らない場所に住んだので、色々知る機会を増やして遊んでいました(笑)



印象に残っているエピソード

私の活動地区は今まで協力隊が入ったことのない地区でしたが、地区行事に限らず小国町全体に向けて行っていた活動も認知してくださっており、活動最後には「本当によくやった」と言ってくださいました。何を残せたかは分かりませんが、「助かった、楽しかった」と言ってもらえ、これが緑のふるさと協力隊なんだと思いました。

ある日のスケジュール

4:40	起床&支度	農家の朝は早い。正直布団から出たくなかった(笑)。
6:00	田んぼの消毒	2tトラックに消毒機械設置。
7:00	朝食	農家さんの家で朝ご飯。
7:45	休憩	朝食後、ソファに座り鳥のさえずりを聞きながら飲む麦茶は「優雅」(笑)。
8:30	お手伝い	別の農家さんの草刈り機を使っての水路の草刈り。
12:00	昼食	これまた農家さん宅で昼食！ こんなご馳走が食べれるなんて幸せ過ぎる～。
13:30	帰宅&休憩	この後学童があるため農業は午前で終了。 少し仮眠をとり、学童の支度。
15:00	学童「ひだまり」	毎週木曜日に担当している学童保育。
17:30	草刈り	盆踊りに向けて、大宮子易両神社の地面整備。
18:00	夕食	農家さんから貰った雑穀や野菜を調理。
19:00	民謡	毎週木曜日民謡を習っている。 とんとん自分も成長するし、いい習い事。
21:30	帰宅・入浴	汗を流せるのは気持ちがいい。
22:30	活動レポート	一日を振り返ってこの時間は「感謝」でいっぱいになる。
23:00	就寝	疲れ切って落ちるように就寝。また明日も楽しもう！

ある月のスケジュール(9月)

					1日	2日
					小国町縦断イベントの準備	大宮神社にて夏に設置した風車の撤去
3日	4日	5日	6日	7日	8日	9日
稲の苗の発芽で使用したハウスの解体作業	近所の草刈りと田んぼのクロ(あぜ道)整備	朝5時から田んぼの草刈り	稲刈り予定が小雨の為中止 中学生の森林セラピーに同行	田んぼのクロの草刈り	休み/買い出し	小国町縦断イベントに参加
10日	11日	12日	13日	14日	15日	16日
稲刈り/サル捕獲のライフル狩猟を見学	かまぼこの収穫の手伝い	かまぼこの収穫の手伝い 午後から休日	中間研修初日	中間研修2日目	中間研修最終日	休日の予定が電話がきて急遽稲刈り
17日	18日	19日	20日	21日	22日	23日
「日本一の芋煮会」フェスティバルに参加	朝仕事で草むしりしてからもみすり	音楽祭に向けての準備	引き続き音楽祭の準備	雑穀の選別と袋詰め	お米のもみすりの手伝い	音楽フェスティバル開催
24日	25日	26日	27日	28日	29日	30日
稲刈り/田んぼの角は鎌で収穫	休日のつもりが急遽熊の解体の手伝い	「若葉のふるさと協力隊」受け入れ最終準備	「若葉のふるさと協力隊」初日/歓迎会	「若葉のふるさと協力隊」2日目/雑穀の袋詰め	「若葉のふるさと協力隊」3日目/芋煮会を主催	「若葉のふるさと協力隊」

1年間の流れ

- 4月** 挨拶まわり、地域の行事(山菜祭り、大日止歌舞伎)、地域の活動(一心園(お茶)、旬果工房テラス(ジャム))
挨拶回りに行くと、どこでも「今年も緑の子来たね。」と声を掛けられた。昨年度までのOBOGの方の存在の大きさを感じた。
- 5月** 稲の種まき、植樹用の苗の準備、わらび粉づくり、地域の活動(宿泊学習参加、唐揚げフェス、川開き)
作業をしながら話す中で、地域のことを考えている人が多いと感じた。特に、今あるものをどのようにして残していくかという話をよく聞いた。高齢化が進む中で町を維持し続けることの難しさを感じた。
- 6月** 農作業(田植え、梅ちぎり)、わら細工、用水路掃除、青雲朝市、日之影中学校の近未来会議見学
日之影中学校の近未来会議に参加して、日之影町の課題を解決する難しさを感じた。どの問題でも解決のポイントとなるものは「ヒト」だと思った。
- 7月** 地域活動(梅のシロップ作り、田んぼの除草、キンカンの摘果)、大人集落の水神祭り、近未来会議のフィールドワーク
農家の人とお話ししていると赤字であっても畑や田んぼを荒らさないために続けている人が多いと知った。6次産業(加工)が持続可能な農業とするために必要なことのひとつではないかと考えた。
- 8月** 地域の活動(山学校、「夏まつりひのかげ」、ソフトボール大会)、農作業手伝い(キンカン摘果、トマト収穫)
「夏まつりひのかげ」のお手伝いをして、日之影に知っている人がたくさんできたと感じた。声を掛けてくれる人や手を振ってくれる人がたくさんいて嬉しかった。
- 9月** 中間研修、農作業(栗拾い、草刈り、ヘチマの収穫)、地域の活動(大日止歌舞伎、ミニバレー大会)、若葉の受け入れ準備
中間研修があり、もう半年経ったのだと時間の速さに驚いている。あと半年何を頑張るか、またどうやってやりたいことを活動に落とし込むのかということを考えていきたい。
- 10月** 若葉のふるさと協力隊受け入れ、渓谷祭り、農作業(栗の皮むき)、地域活動(大日止神楽)
渓谷まつりにあわせて町主催の緑のふるさと協力隊30周年事業が行われ、日之影に派遣された歴代隊員の方たちにお会いできた。節目の年に来たからこそつながったご縁も沢山あった。
- 11月** 地域の活動(「第2のふるさと」、「わけもの主張」準備)、神楽まつり、わら細工(しめ縄づくり)、農作業(芋ほり、柚子・かぼす収穫)
写真や動画など少しずつ好きなことが活動としてできるようになり、さらにそれをほめてもらえる環境で活動できていることが幸せだと感じた。
- 12月** 地域行事(「わけもの主張」本番、自遊学校防災キャンプ、夜神楽練習)、大根の漬物づくり、わら細工(しめ縄づくり)
しめ縄づくりは0から完成まで全て手作業で行われているところに魅力を感じた。手間を考えると値段以上の価値があるのではないかと思った。
- 1月** 地域の行事(成人式、出初め式、餅つき、風揚げ、ひな人形の飾りつけ)、夜神楽本番、醸造所の手伝い
地域の方と話していて「日之影の好きなどころは人が優しいところなんです」と言った時に、「人は鏡だから」と教えてくださった方がいた。すごく素敵な考え方だと感じた。
- 2月** 田おこし、炭焼見学・炭だし、日向夏収穫、芋餅づくり、味噌づくり、町民の集い(広報用カメラマンとして)、挨拶回り
2月後半から挨拶回りを始めた。ご挨拶に伺う人をリストにしていたら、この1年ですごくたくさんの人に関わっていただいたのだと知った。
- 3月** 活動報告会、地蔵さんと神楽奉納、挨拶回り
挨拶まわりで「また帰っておいで」とか「いつでも待ってるよ」と言っていた。いつでも帰ってこれると思えるような場所になったことが嬉しい。

第30期(2023年度)宮崎県日之影町派遣 森 琴子さんの場合 大学生(休学)→緑のふるさと協力隊

休日の過ごし方

地域の方のお家にお邪魔してご飯を食べさせていただくことが多かったです。活動中には時間がなくて話せなかったことや活動ではお会いすることが難しい方もお話できたことで、地域のことを深く知り、自分自身の生き方や将来像を考えられる時間となりました。



印象に残っているエピソード

中学校の近未来会議でのエピソードです。中学3年生の生徒さんと話している際に、日之影町が好き、一度町を出たとしてもいつかは日之影町に戻ってきたいという声を聞きました。住んでいる子ども達も自分の住んでいる町を好きだと思えるような環境であることがとても素敵なことだと感じました。



ある日のスケジュール

7:00	起床&支度	朝ご飯を食べて、身支度を整える。この日は活動先にお弁当を持っていくということで、おにぎりとおかずを作った。
9:00	自遊学校手伝い	子ども達が自由に遊べるコミュニティスペースのお手伝い。この日は1歳から13歳と幅広い年齢の子ども達が来ていました。
13:00	出発	みんなでお昼ご飯を食べた後、おもちゃの片づけをして自遊学校は終了。集落のお祭りに行くため出発!
14:00	集落のお祭り	毎年恒例の、樺木尾集落の集落神社例大祭。弓矢を引く奉納行事があるお祭りです。地域の方と神社で焚火を囲みながら話しました。
17:00	夕食	この日は樺木尾集落の方にお食事をいただきました。サラダ巻きや郷土料理の煮しめなどご馳走がたくさん並んでいました!
20:00	帰宅&就寝準備	いただいた依頼やお誘いへの返信もこの時間にすることが多いです。
22:00	就寝	次の日も元気に頑張れるように早めに寝ることを意識しています。

ある月のスケジュール(1月)

	1日 地域のひとと正月を過ごす ご馳走をいただきながら ゆったりとした	2日 家で写真の整理	3日 ゆっくりとお散歩 三が日にこんなにのんびり したのは初めて	4日 成人式の見学 たった2年前なのにすごく 懐かしく感じた	5日 出初め式の見学 消防服がかっこよかった	6日 つりがねの手伝い 20人ほどの宿泊のため 夜ご飯づくりの手伝い
7日 4時起きて5時から調理開始 掃除と洗濯をしてすっきりした	8日 神楽の準備 神と竹を取りに行った	9日 午前中は休み 午後は福田酒造さんの ひな人形の飾りつけ	10日 ふるさと通信の作成と印刷	11日 福田酒造さんのひな人形 の飾りつけの続き	12日 夜神楽の前日準備へ	13日 夜神楽本番 昼から神社に上がり 神社で神楽の笛を吹く
14日 夜神楽2日目 境内で舞う時より館の方が 距離が近く迫力があつた	15日 休日 日之影でできた友人とランチ	16日 高千穂高校の生徒さんが 歌舞伎の館に見学のため 神楽の笛を吹く	17日 わら細工たくは 亀を作る体験ができた	18日 午前中は樺木尾集落で なば(しいたけ)採りの手伝い 午後は休み	19日 地域おこしで風あげに参加 連風が上がるの初めて見た すごく綺麗だった	20日 午前中は休み 青年団の餅つきの手伝い
21日 町内駅伝大会の予定が 雨で中止に	22日 午前中は休み 午後から福田酒造さんへ 雛飾りの手伝い	23日 興地集落 日之影の米粉を使った シフォンケーキを作った	24日 雪で休み/朝は自宅待機 午後は役所でカラふるの 原稿づくり	25日 福田酒造さんで雛飾り 完成した姿が想像できる 感じになってきた	26日 福田酒造さんで七段飾り 並べるのが大変	27日 歌舞伎の梅の選定
28日 大人集落で田おこし	29日 わら細工たくは 亀づくりに2回目の挑戦 完成が楽しみ	30日 終日休み 引っ越しの準備と掃除 終わりが近いと実感する	31日 樺木尾集落でそば粉を 使ったお菓子作り			

活動終了後の進路

活動終了後、約4割の隊員が定住します。進路について多くの隊員が語るのは、活動の経験から「生きる・働く」将来像が具体的になったということ。いくつかの仕事を組み合わせて暮らしを営んだり、地域づくり活動をステップアップさせて独立・起業したりと、新しい働き方、生き方に挑戦しています。また活動終了時は「模索中」でも、数か月後には都市や農山村で進路を見つける人がほとんどです。地域との信頼関係やつながり、経験が自分らしい選択を後押ししてくれます。

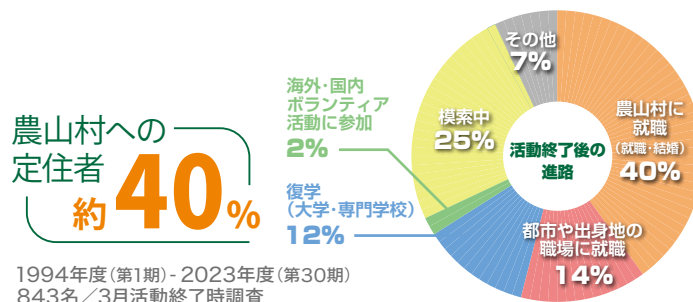
第21期 高知県大川村派遣

和田 将之さん



いまどうしていますか？

現在、村議会議員として2期6年目を迎えています。若者や移住者も含めた多様な価値観や才能を活かした村づくりを目指し、2019年に立候補しました。緑のふるさと協力隊で培った住民との繋がりを活かし、地域課題の解決に奔走する毎日です。また、農業や行商、ラーメン屋など、幅広い仕事に関わっています。プライベートでは、2016年に結婚して子どもも2人生まれました。妻の実家の古民家で、4世代7人の大家族で暮らしています。休日は地域の仲間とイベントをしたり、子どもと川遊びをしたり、充実した日々を送っています！



活動終了後、こんな仕事・進路をえらんでいます

農業(百姓、農業法人、農家レストラン)、森林組合、漁業、地域づくりコーディネーター、地域おこし協力隊、集落支援員、手仕事・職人(竹細工、茅葺き、革製品作家、木工)、大工、行政(県職員、市町村職員、外交官)、観光協会、社会福祉協議会、NPO法人、教員(小学校、高校、大学)、塾講師、研究者、企業、新聞社、出版社、カメラマン、道の駅等観光施設、国立公園管理事務所、介護福祉、障害者福祉施設、図書館、市議会議員など

会社員 → 緑のふるさと協力隊 → 定住: 地域おこし協力隊
→ 集落支援員 → 村議会議員、農業、ラーメン屋、行商

きっかけは？

生まれ育った群馬での虫取りや魚採りが、田舎を好きになった原体験です。学生時代に経験した東日本大震災も、自然との関わり方や自身の生き方を考える契機になりました。その後、一度は都市部で就職したものの上手くいかず、将来を模索していた時に出会ったのが緑のふるさと協力隊でした。人生を変えるチャンスになるのではと期待し、応募しました。

協力隊を経験して感じたことは？

派遣先が協力隊の受け入れが初だったこともあり、住民や行政の方と信頼関係を作るのに必死の毎日でした。挨拶回りから始まり、農作業や草刈り、集落行事、日曜大工や読み聞かせなど様々な活動をしました。無我夢中の毎日でしたが、村の若者たちとの交流や地域の飲み会など楽しいことも盛りだくさんでした。自然と調和し、伝統や人々の繋がりを大切にする昔ながらの暮らしが村には残っています。多様な人々が一体となって地域づくりに取り組む姿勢が、村の大きな魅力です。



益子 茜さん

会社員 → 緑のふるさと協力隊
→ 定住: 会社員

協力隊を経験して感じたことは？

「豊かさ」に対する価値観を考えるきっかけになりました。村の方々は皆温かく、都市部では考えられない器の大きさで受け入れてくれました。都市部から離れて決して便利とは言えない生活を送る中で物に依存しない生活を経験し、様々な年代・価値観の人と出会ったことで、自身を豊かにしてくれるのは「モノ」ではなく「ヒト」なのではと感じました。

いまどうしていますか？

現在は村内の建設会社に就職しました。高齢者世帯を中心に電話一本でなんでも住宅の困りごとを解決するサービスの担当者と広報係をしています。建設業は未経験ですが、任期中に築いた村内の人脈が仕事に生きることもあります。住宅の修繕から草刈り・蜂の駆除まで、村の方々の生活に関わるお仕事に携わることができ、やりがいに繋がっています。協力隊の経験を経て、仕事とプライベートどちらも大切に生きる生き方を意識するようになりました。

きっかけは？

前職の退職をきっかけに、環境を変え一社会人として多様な仕事を経験してみたいと思い応募しました。初めての一人暮らしで不安もありましたが、家や車など暮らしのサポートがあることも理由のひとつでした。



きっかけは？

将来的に教育現場で働くために、子ども一人一人に寄り添えるような多様な経験をしたと思っていました。多様な経験のうちの「田舎暮らしの経験」を積むために応募を決めました。



大学休学 → 緑のふるさと協力隊
→ 復学 → 学校教員

河内彩奈咲さん

協力隊を経験して感じたことは？

多様な年代・職種の方と友人/家族のような関係性で本音で語り合えたことはとても大切な経験となりました。農家や会社員問わず、私生活と仕事の境目が曖昧で、自分の人生の中に仕事がある方がとても多かったのが印象的でした。私もいつかは自然豊かな場所で、自分が大切にしたいことを大切にできる仕事、生き方をしたいと思うようになりました。

いまどうしていますか？

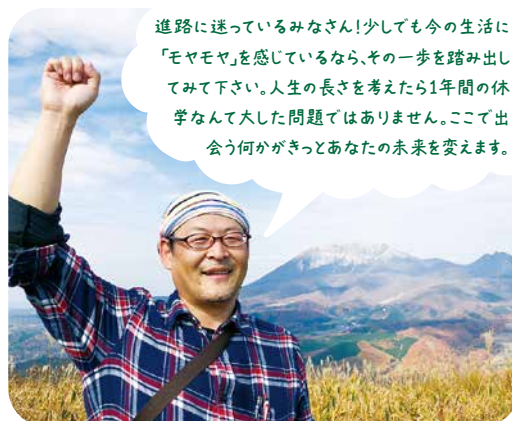
現在は学校教員として、主に生徒の学校生活のサポートや進路指導を行っています。目の前の出来事や見えない未来に悩む生徒達には、「まだまだ知らないことはたくさんある」ということを伝えられたらと思っています。仕事が休みの時には、自然豊かな場所に行ったり、自分のこれらについて考えたり、協力隊の時に得た感覚を大切に暮らしています。

中本 敦さん

専門学校生 → 緑のふるさと協力隊
→ 大学生 → 大学教員

いまどうしていますか？

現在は大学教員として野生動物の研究をしています。あれから30年が過ぎました。今、仕事で獣害に向き合うたびに思い出すことは、派遣先の自然とそこに暮らしていた人々です。「自然との共存」を実践することは実際にはそう簡単なことではありません。ですが、日之影町の人々は自然にそれをやっていたように思えます。この道を選んだ理由はわかりませんが、この30年で新たに学んだことを使って恩返ししたい気持ちでいっぱいです。



進路に迷っているみなさん! 少しでも今の生活に「モヤモヤ」を感じているなら、その一歩を踏み出して下さい。人生の長さを考えたら1年間の休学なんて大した問題ではありません。ここで出会う何かがきっとあなたの未来を変えます。

応募から派遣までの流れ

活動期間

2025年4月4日(金)～
2026年3月15日(日)
※事前・中間・総括研修含む

参加申込書提出

書類選考

面接選考

隊員決定 合意の取り交わし

派遣に向けての準備 派遣

参加資格

- ① 健康な18歳～概ね45歳までの人
- ② この事業に情熱と意欲を持って参加できる人
- ③ 参加期間を通じ、現住所を離れて活動できる人
- ④ 全期間参加できる人
- ⑤ 普通自動車運転免許を持っている人(MT推奨)
※持っていない人は、派遣される前までに必ず取得してください。

(1)参加申込書記入

参加申込書の用紙は、資料請求または地球緑化センターのホームページよりダウンロードできます。手書き、またはデータ入力(Word文書)どちらかで作成してください。参加申込書記入の際には、以下の事項に留意のうえご記入ください。

- ① 必ず本人が記入・入力してください(手書きの場合は、ボールペン使用のこと)。
- ② 休学して参加する学生は、保護者が所定の欄に署名捺印してください。
- ③ 顔写真は、胸から上の正面写真を貼付してください(スナップ写真は不可)。
- ④ 書類選考および面接選考では「応募動機」を一番重視します。自分の思いを率直に詳しくお書きください。

(2)参加申込書の提出

応募締切:郵送、メールともに、**2024年12月20日(金)必着**で地球緑化センターに送付してください。

- ※ 提出いただいた参加申込書は、当事業の運営のみに使用し返却は致しません。
- ※ 受入先が多くなった場合には、二次募集を行うことがあります。応募締切後は、地球緑化センター事務局へお問合せください。

書類選考の結果は**12月末**までに郵送でお送りします。

- | | |
|------------|----------------|
| ① 面接選考会の案内 | ③ 活動先及び活動内容一覧表 |
| ② 健康診断書用紙 | ④ 活動先希望アンケート用紙 |

東京(**2025年1月18日(土)**)にて面接選考会を開催します(会場までの交通費は自己負担)。

面接選考は、グループ面接と個人面接を予定しています。

※応募状況に応じて、中京もしくは関西方面でも実施する場合があります。

主な内容

- ① 応募の動機などについて詳しくお聞きします。
- ② 現地活動への意志と意欲を確認します。
- ③ あなたの特性、希望をいかして何ができるかをお聞きします。

派遣先決定のポイント

- ① 本人と受入先の希望を考慮しながら、応募者の持ち味がいかされるように配慮して決定します。
- ② 活動に集中し、異なる文化や歴史を体感してほしいとの思いから、原則として現住所や出身地に近い地域には派遣されません。
※選考内容についてはお答えできませんので、予めご了承ください。

2025年2月中旬を目安に選考結果を通知します。面接選考を通過した人には、「緑のふるさと協力隊派遣に伴う合意書」をお送りします。当センターと面接選考を通過した人との間で合意書を取り交わし、これによって「緑のふるさと協力隊」としての派遣が正式に決定します。ただし、事前研修中の健康状態などにより現地活動に耐えられないと判断される場合には、派遣中止になることもあります。

引っ越しについて

当センターより住居・生活備品等の詳細についてお知らせしますので、その案内に沿って準備を進めます。各自の荷物の送付は2025年3月下旬頃です。

事前研修について

研修会場や内容については改めて連絡します。事前研修が終了した後、そのまま受入先へ向かいます。

Q&A

説明会等で寄せられる質問をいくつかまとめました。

なお、募集説明会は各地で開催予定です。詳しくは、ホームページをご覧ください。

参加するにあたって、専門的な技術や資格は必要ですか？

→ P.13にある参加資格以外は必要ありません。まったく土に触れたことのない人や、ボランティア活動未経験の人も大勢参加されています。「農山村で1年間頑張ってみたい」という思いのある方なら誰でも大歓迎です。

月5.5万円で生活できるか不安です

→ 第30期までは月5万円でしたが、物価上昇を考慮して、第31期より生活費は月5.5万円としています。これまでに生活が維持できずに活動を辞めた例はありません。“地域にあるもの”を工夫して暮らすように努力したり、時おり地域の方からお米や野菜のおすそ分けを頂いたりなど、5.5万円の暮らしだからこそ生まれる交流が1年間を面白くします。

普段、車の運転をしていないのですが…

→ 協力隊に参加するために運転免許を取得した方、都会では運転の機会が少なく自信がないという方も多いです。着任すると担当者の方がオリエンテーションも兼ねて地域内を案内してくれますので、少しずつ道や運転に慣れていくことができますでしょう。

派遣先は選べますか？

→ 面接選考の前に受入先の資料を配布し、希望する派遣先を第3希望までお聞きします。必ずしも希望した自治体に派遣されるとは限りませんが、応募状況や受入先の特性などと合わせて、応募者の持ち味がいかされるよう総合的に判断して決定しています。

「地域おこし協力隊」との違いは何ですか？

→ 「地域おこし協力隊」は、「緑のふるさと協力隊」をモデルにして総務省により創設された制度です。
【椎川忍氏(元総務省 地域力創造審議官)が著した「地域に飛び出す公務員ハンドブック(P.180)」参照】
どちらも農山村の活性化を目指すものですが、活動形態や活動内容に違いがあります(下表)。「緑のふるさと協力隊」の経験を活かし、その後「地域おこし協力隊」として活躍するOBOGも増えています。

	緑のふるさと協力隊	地域おこし協力隊
活動形態	地域貢献活動 (地球緑化センターが応募者と受入先のマッチングを行う)	仕事(自治体との雇用関係)
期間	1年間 ※休学休職をしての参加もOK	3年間(1年更新)
活動内容	農林畜産漁業・特産品加工・福祉・教育・伝統文化・集落活動・地域行事など、地域社会を支える多種多様な活動に幅広く取り組む 例:神楽、運動会、学童保育、道の駅、マルシェ…	定住を目的として自治体が定めたミッションに取り組む
待遇	生活費5.5万円/月の支給と、住居、生活に必要な備品類、活動車両(ガソリン代含む)、水道光熱費、研修ボランティア保険等が提供され、1年間安心して活動に取り組める体制が整っている	自治体により異なるが、毎月給与が支給され、住居費や車両等全て本人負担となる

「緑のふるさと協力隊」は、特別なスキルがなくても参加できるプログラムです。

「仕事」という枠を越え、地域の一員として自分の目で見・感じて・体験することでたくさんの気づきや学びがあります。青年団、サークル活動、消防団など地域住民として暮らしを経験することも活動の一つ。いろいろな出会いや経験から、自分自身の可能性や価値観を広げていけるのも「緑のふるさと協力隊」ならではの魅力です。

地球緑化センターとは

地球緑化センターは、「緑、人を育む」をテーマに、社会の在り方や人の生き方を見つめてきました。環境問題、農山村の過疎化などの社会の課題に対し、市民ひとりひとりが自ら考え行動できるよう、多彩なボランティアプログラムの企画・提供、情報発信をしています。

若者の長期農山村貢献活動 緑のふるさと協力隊



児童・生徒への環境教育活動 緑の学校



国内森林ボランティア
山と緑の協力隊



中国での植林活動
緑の親善大使



地球緑化センターの歩み

- 1993年 団体発足
中国内モンゴルでの砂漠緑化事業がスタート
- 1994年 緑のふるさと協力隊事業スタート
国内で初めて市町村自治体と連携を図った長期ボランティア活動を実施
- 1996年 森林ボランティア「山と緑の協力隊」スタート
(第1回は長野県赤沢自然休養林)
民間団体として初めて国有林で活動
- 1999年 特定非営利活動法人格を取得
- 2000年 朝日新聞社主催「第1回明日への環境賞 森林文化特別賞」受賞
- 2005年 愛知万博「地球市民村」パビリオン出展
- 2006年 オーライ!ニッポン会議主催
「第3回オーライ!ニッポン大賞」受賞
- 2007年 緑のふるさと協力隊短期体験プログラム
「若葉のふるさと協力隊」スタート
- 2008年 日中環境緑化交流センター(中国河北省豊寧県)開所
- 2009年 「田舎で働き隊!」事業(農林水産省)の事業実施
主体に選定される
- 2010年 「農山村再生・若者白書2010」(農文協)刊行
- 2015年 森林ボランティア「山と緑の協力隊」
第200回記念プログラムを開催
(長野県赤沢自然休養林)
- 2023年 設立30周年

多彩なニーズに応えます

- ① 企業・組合の社会貢献活動・研修などのコーディネート
- ② 大学のゼミやサークルなどグループ活動の支援
- ③ 体験学習のプログラム提供・講師派遣
- ④ 自治体、行政、他団体との連携など

情報を発信します

- ① 機関誌「タマリスク」「緑の通信」の発行
- ② 出版物の作成、貸出、頒布
- ③ ホームページ等による情報提供
- ④ SNS、YouTube等での情報発信



会員募集 緑で未来を育む活動を支えてください!

1993年に設立された地球緑化センターは、会員の皆様一人ひとりの思いを大切に、緑と人、人と人をつなぐ活動を続け、今年で31年目を迎えます。当団体の運営は、会員の皆様からの会費やご寄付、様々なご支援により支えられています。趣旨に賛同し、活動を応援して下さる方のご入会をお待ちしています。

入会金 (入会時のみ) 1,000円

年会費
正会員 ★総会の議決権あり
 個人会員 10,000円
 団体会員 50,000円

賛助会員
 個人会員 5,000円
 団体会員 20,000円

入会方法

入会希望の方は事務局までメールまたは電話でご連絡のうえ、以下の口座へご送金ください。

- ▶郵便振替 00130-2-761479
- ▶三菱 UFJ 銀行 八重洲通支店(普) 1011076

正会員の特典

- ▶機関誌「タマリスク」「緑の通信」無料送付
- ▶地球緑化センター主催プログラムに優先参加、または参加費の割引があります。

■クレジットカード寄付の受付を開始しました

「Syncable」の寄付システムを利用し、クレジットカードでもご寄付いただけます。 <https://syncable.biz/associate/gec/>

YouTube

緑のふるさと協力隊
チャンネル



note

緑のふるさと
協力隊ブログ

